

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873800759		
法人名	有限会社 光陽		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	茨城県稲敷郡河内町長竿3866-1 (電話) 0297-84-2207		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918	茨城県総合福祉会館内	
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年7月29日

【情報提供票より】 (21年2月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	12人, 非常勤 5人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	17,500 円
敷 金	有 (100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年2月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢野医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者に質の高いサービスが提供できるよう職員の教育に力を入れ、各種研修の機会をつくっている。  
 利用者が地域の中で安心して暮らし続けられるよう地域の人々とふれあう機会を多く作り、地域の人々からも気にかけてもらっている。  
 利用者のできる力とやる気を尊重し、あえて手出しをせず声かけと見守りの支援をしている。  
 利用者は自発的にできること、やりたいことを判断して暮らしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 職員の異動は月1回送付する手紙で家族等に報告するよう改善している。 重度化や緊急時対応は同意書や対応マニュアルを作成し改善しているが「看取り」については職員の共通理解と把握が十分なされていない。 災害時の食糧を3日分備蓄している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が自己評価の目的を理解するとともに、気付きを基に改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は利用者の家族等、町職員、地域包括支援センター長、民生委員、第三者苦情受付窓口担当者、地域の代表、経営者、管理者で2ヶ月毎に開催している。 会議で話し合った内容を記録に残すとともにサービスの質の向上に活かしている。 また、災害時の協力依頼をしているが、避難訓練への参加など具体的な協力体制を確立するまでには至っていないので引き続き要請することを期待する。 利用者と委員が昼食を共にして利用者の様子を見てもらっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会や苦情ノートの意見を職員で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。 運営推進会議に第三者苦情受付担当者が出席して意見を聴くほか、重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の運動会や祭りに参加するほか、資源ごみ収集の立ち合いや生協の品物の受け取りなどを通して顔見知りになり、利用者の徘徊時などに協力を得ている。 地域の小学生が季節ごとにホームを訪れふれあいを楽しんでいる。 地域以外の市町村のイベントにも積極的に参加している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の暖かい環境の中で、自分らしい暮らしがあたりまえにできるための支援をする」との理念に基づき地域の信頼を得られるよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で理念を理解し申し送り時に確認し合い実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や祭りに参加するほか、資源ごみ収集の立ち合いや生協の品物の受け取りなどを通して顔見知りになり、利用者の徘徊時などに協力を得ている。 地域の小学生が季節ごとにホームを訪れふれあいを楽しんでいる。 地域以外の市町村のイベントにも積極的に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価の意義や目的を理解するとともに、気づきを基に改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者の家族等、町職員、地域包括支援センター長、民生委員、第三者苦情受付窓口担当者、地域の代表、経営者、管理者で2ヶ月毎に開催している。 会議で話し合った内容を記録に残すとともにサービスの質の向上に活かしている。 利用者と委員が昼食を共にして利用者の様子を見てもらっている。	○	運営推進会議で災害時の協力依頼をしているが、避難訓練への参加など具体的な協力体制を確立するまでには至っていないので引き続き要請し実現できることを期待する。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者にホーム行事に参加してもらうほか、ホーム運営上の報告や連絡、相談に役場に向くとともに情報交換やアドバイスを心得てサービスの質の向上に活かしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回担当者が利用者の様子などを手紙に書き郵送している。 また、職員の異動についても手紙の中で報告している。 利用者の個人的な出費は立替払いをし、利用料と一緒に請求している。 行事の案内は利用者が手書きの招待状を作り家族等に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や苦情ノートの意見を職員で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。 運営推進会議に第三者苦情受付担当者が出席して意見を聴くほか、重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動が主であり、利用者が不安な時には馴染みの職員が話を聞き安心できるよう支援して利用者へのダメージが最小限になるよう努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はあらゆる研修受講の機会が与えられており、年間研修計画の他にも内部勉強会を実施している。 研修受講者は内容を勉強会で報告し全職員が共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム3事業所が食事会などで情報交換や交流を通してサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者に体験利用をしてもらうとともに、馴染めない場合は家族等の協力を得て自宅とホームの行き来を繰り返しながら馴染んでもらえるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の行動にはあえて手を出さないよう職員で見守っている。 漬物作りや食事作り、縫い物、畑仕事などを職員が教えてもらったり、食後に職員と利用者が昔の話などで会話を楽しみ、支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の個人記録や会話の中から思いや意向を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族等、担当職員、計画作成担当者、必要な関係者で意見を出し合い、課題を把握するとともに利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の記録から介護計画の達成度を参考に3ヶ月から6ヶ月ごとに見直している。 見直し期間前でも状態に変化が生じた場合はその都度現状に即した介護計画に見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携により利用者が24時間安心して暮らせる体制を確立するとともに、近隣高齢者の突発的な利用の要望にもショートステイで柔軟に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望にそってかかりつけ医への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に家族等と話し合い指針を作成している。 利用者の状態の変化に応じて看護師や協力医と話し合っているが、職員の話し合いや看取りに対し共通理解をするまでには至っていない。	○	看取りに関しては状態の変化に応じて関係者で話し合い、記録するとともに関係者全員が共通理解をすることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者はプライバシーの保護を徹底するため会議や業務の中で職員に繰り返し指導している。 排泄チェック表など個人記録は目に触れない場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はできる限り利用者一人ひとりのペースを大切にするとともに、利用者の生活歴や日常の様子から思いや意向を把握し、意思決定を大切にするとともに手を出さずに満足するよう見守っている。 畑の草取りや食事作りは利用者が自発的に行い職員は見守り支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が揚げた天婦羅や煮物、手作りの漬物などを話題にして楽しく食事をしている。 食後は職員が洗った食器などを利用者が拭きながら会話を楽しんでいる。 天気の良い日には、デッキで食事をすることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望の時間帯で2日に1度の入浴を支援している。 入浴を嫌がる利用者には、入浴剤を入れるなどで入浴が楽しくなるよう工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野を把握し、お菓子作りや来客へのお茶出しなど自発的に役割を担ってもらい、感謝の気持ちを伝えている。 食事作りは利用者がエプロンをかけ、自宅で食事の準備をしているように生き生きとしている。 年に何回かはお弁当を作って行楽に出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	生協の食材受取りや週1回の買い物に利用者が毎回1人ずつ同行できるよう支援している。 毎月の行事でドライブや外食をしたり、利用者が家族等と共に外泊するなど外出の機会をつくっている。 天気の良い日は近くを散歩し、花やもち草など花摘みをしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵をかけないケアを理解し、利用者一人ひとりの行動の傾向を把握して見守っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け毎年避難訓練を実施している。 食糧は3日分を備蓄している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューノートを作成し栄養バランスに配慮するとともに、水分量をチェック表に記録し把握している。 利用者の状態に応じて食事量や形態を調整している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にし、玄関前に植木や花のコーナーを設けている。 夏はよしずで日差しを和らげる工夫をするとともにフロアのあちらこちらにソファを設置し、自由に過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が馴染みの家具を持ち込み、自分らしく配置するとともに家族等の写真や手作りの作品を飾っている。 居室内で花鉢を育てて楽しんでいる利用者もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。